

有明海自然観察会

平成 28 年 6 月 21 日～23 日

1. 行程 :

- (1) 6/21 新大阪 (8:24 のぞみ 1 号) → 博多 (11:15 特急かもめ 19 号) → 肥前鹿島着 (12:15)
→ 太良嶽温泉 → 潮干狩り → 蟹御殿泊 (平方氏ミニ講演)
- (2) 6/22 蟹御殿 → 諫早湾潮受け堤防 → 島原市雲仙岳災害記念館 → 多比良港 (12:40) → 長洲港 (13:25)
→ 矢部川河口干潟 → 白柳荘泊 (有明海塾・伝習館校教諭ミニ講演)
- (3) 6/23 白柳荘 → 柳川水郷巡り → 柳川市立歴史民俗資料館 (北原白秋生家) → 昼食 (ウナギ蒸籠蒸) →
下筑後川漁協・エツ稚魚育成施設見学 → JR 博多駅 (16:04 のぞみ 48 号) → 新大阪着 (18:34)

2. 参加者 (敬称略)

1 斑		2 斑	
青木 賀代	堀井 良子	荒木 一弘	松谷 伸規
岩佐 達	御菴袋 宣子	氏家 美智子	南出 一男
鱗星 知恵子	村井 達治	小川 佳代	薬師神 通子
櫻井 裕	原 良子	田中 和江	中嶋 淳子
戸島 健之	樋野 巧 (S)	濱田 亮子	西尾 光市 (S)
原 純一	森本 真弓 (S)	福有 正一	飯田 正恒 (S)
船本 浩路	*****	星田 京子	*****
コーディネーター 京都大学名誉教授 田中 克先生		S=スタッフ	

観察概況

(1) 6月 21 日 (干潟の観察と潮干狩り)



蟹御殿で着替え、



太良町干潟再生実験区で



漁師平方宣清さんに有明海の近況を聞き、干潟観察と潮干狩り。



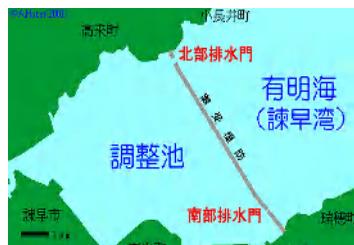
干潟にカキ殻や中身のないアサリの殻は多くあるも、肝腎のアサリはほとんど見つからず。いくつか見つけた貝を同定していただいた。



キレートマリン

有明海はかつて豊穣の海といわれ、冬のタイラギ漁、春はアサリ、夏はカニ、クルマエビ、アナゴ、シャコなど多様な魚介類が多く獲れ、豊かな生活をおくれたという。諫早湾に潮受け堤防ができ、締め切られた後、大規模赤潮や貧酸素水塊が発生するようになり、魚介類が大ダメージ。再生を目指し、平方さんのアサリ養殖場を干潟再生実験区とし、キレートマリンの散布や防鳥網などの設置効果で、アサリの稚貝を多く見つけたが、夏、赤潮が発生すると死滅の懼れ大という。左のカゴの中には本日の潮干狩りの収穫。

(2) 6月22日（諫早湾潮受け堤防見学→島原市雲仙嶽災害記念館見学→矢部川河口域干潟でムツゴロウ観察→白柳荘で有明塾生等ミニ講演



諫早湾潮受け堤防は7kmの高速道路。潮受け堤防展望所の干拓事業説明板前で平方さん解説（雨中のため途中からバス車内で）



雲仙岳災害記念館がまだドーム外観。背後は雲仙岳

島原半島多比良港と対岸長洲港の切符売り場



当初予定した塩塚川
が豪雨のため、大牟田
市矢部川河口域干潟
に変更しムツゴロウ
観察。
左：矢部川
中：ムツゴロウ
右：トビハゼ
撮影：岩佐 達氏



(3) 6月23日：柳川水郷めぐり→白秋記念館→山田屋（ウナギ蒸籠蒸し）→筑後川大堰→下筑後川漁協（エツ養殖場見学）



有明塾活動をする小宮春平さん（於白柳荘）

柳川水郷めぐり出発

歌の上手な船頭さん



北原白秋生家

ウナギ蒸籠蒸し

筑後川大堰

エツ仔魚飼育水槽

後記：この3日間、漁師の平方宣清さん、田中安信さん、塚本辰巳さん、有明海塾の小宮春平君達、伝習館高校木庭慎治先生の有明海を巡るそれぞれの立場からの活動について説明をお聞きしたが、以前の豊かだった有明海を再生するために皆さん、いのちを掛け取組んでおられることに大きな感銘を受けた。また平方さんのアサリ養殖場（干潟）に入ってみて、昔の有明海に戻すための苦労の大きさを実感することができた。今回のこの貴重な体験を有明海復活のために何らかの貢献が出来ればと願っている。この観察会を企画いただいた田中克先生、および現地でご案内いただいた皆様に感謝申しあげます。（飯田正恒 記）